

一般財団法人
山鹿市地域振興公社

経営状況説明書

令和元年度の決算に関する書類

1 事業報告書

2 決算報告書

(1) 収支計算書

(2) 正味財産増減計算書

(3) 貸借対照表

3 財産目録

令和元年度一般財団法人山鹿市地域振興公社事業報告書

平成31年4月1日から令和2年3月31日

1 総括事項

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき設立認可された一般財団法人山鹿市地域振興公社の令和元年度事業実施に当たり、山鹿市の「公の施設」5施設の指定管理を引き続き受託し、市民サービスの向上、福祉の増進に努めるとともに、市民の文化・観光及びスポーツ振興の積極的な推進を図った。さらに、自主事業及び公益目的事業を展開し、利用者の満足度向上に努めた。

観光施設においては、各担当課施策との積極的な連携を図るとともに、施設の新たな利活用による賑わいづくりを行った。また、文化施設においては、これまで公社が培ってきたネットワークを活用し、地域性に富み、文化的で質の高い自主事業の展開を図った。さらに体育施設においては、公社が持つ経験と専門性を活かし、女子世界ハンドボール選手権大会等の成功に貢献するとともに、テニスコート等の新規施設の供用開始や総合体育館の長期の施設改修等の様々な難しい課題がある中、円滑な市民の施設利用を実現することができた。

公社全体としては、年間を通じて順調な経営状況を維持していたが、1月後半からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大による催事中止や施設休館等による大きな影響を受ける結果となった。

2 事業の内容

(1) 自主事業・公益目的事業

ア 文化振興・福祉向上事業

- (ア) 観光都市やまがをPRする人材育成を図るため「山鹿市旅先案内人養成講座」を実施し、市民によるボランティア活動を積極的に支援しながら、山鹿を訪れる観光客の受け入れ態勢の充実を図った。
- (イ) 山鹿市旅先案内人の会による土・日祝日の山鹿灯籠民芸館内でのボランティア案内を実施し、年間を通して山鹿市の歴史・文化や伝統工芸品等の広報活動を行った。
- (ウ) 八千代座において、これまで市の委託補助金により実施してきた狂言・子ども歌舞伎教室等の「八千代座文化講座事業」が昨年度で終了となったが、本年度からは、公社の全額持ち出しによる事業へと転換を図り、本市の文化振興と地域に根ざした舞台芸術の創造を図るため両教室を実施した。
- (エ) 八千代座において、かつて映画館でもあったその歴史的役割と、地域で失われた映画鑑賞の機会の提供を目的に「優秀映画鑑賞事業」を行った。
- (オ) 八千代座を活用した舞台芸術活動として、熊本県立劇場等と連携したネットワーク型事業を活用し、狂言公演「野村万禄と狂言を楽しむ会」、音楽公演「大野雄二トリオによるJAZZコンサート」、落語公演「桂米團治独演会」等の公演事業を行った。
- (カ) 八千代座を活用し、映画や舞台芸能など、山鹿出身者が関係する作品等の上演により、地域文化の振興と文化による山鹿の子ども達の育成を図る「八

千代座次世代子ども文化育成事業」を行った。

- (キ) さくら湯において、年中行事として定着した「菖蒲湯」「敬老湯」「柚子湯」「金柑湯」を行うほか、「父の日・母の日」の企画湯では当日入浴者へ感謝の気持ちを込めた粗品進呈を行った。
- (ク) さくら湯において、歴史ある山鹿温泉の元湯としての「温泉情緒」を醸成するため、季節に応じて風鈴や簾、門松などの設置を行い、利用者や観光客がさくら湯を通して四季の移り変わりを感じるような取り組みを行った。
- (ケ) さくら湯において、八千代座・山鹿灯籠民芸館と連携して行ってきた共通入館券入浴料割引に加え、片方の施設だけの通常入館券による入浴料割引を実施し、観光三施設の回遊性の向上と更なる入浴者の増加を図った。
- (コ) さくら湯において、市内の小学校の長期休暇に合わせて実施している子ども入浴料無料の「早起き朝湯」事業について、対象を中学生まで広げ受付時間の見直しを行い参加者の増加を図った。また、市内小学一年生及び金婚夫婦を対象とした龍の湯招待事業についても山鹿市や山鹿市教育委員会と連携して取り組んだ。
- (サ) さくら湯において、山鹿市とともに企画から取り組んできた着地型観光商品・山鹿あそびの「灯籠温泉卓球」「池の間カフェ」を継続して行った。また、市民の手芸品の展示や音楽愛好家によるコンサート、落語の開催による「山鹿湯町企画展」を実施し、施設の活用を図った。
- (シ) 市民の運動不足の解消、健康増進等を図る目的で、市内外、男女、年齢に関係なく楽しめる「第18回新春ビーチボールバレー大会」を実施した。
- (ス) カルチャースポーツセンターにおいて、①期間内に何度も利用できるトレーニングジム会員制度②スポーツトレーナーによるシェイプアップ・体力向上プログラム等を取り入れたフィットネス会員制度③ジムとフィットネスの両方の講座を利用できるダブル会員制度の3種類の会員制度を継続し行った。また、フィットネスの新しい種目を取り入れて、参加者の増加および施設の利用活性化と市民の健康増進に取り組んだ。
また、さくら湯と連携した「アロマの香りとヨガによる健康運動教室」も引続き開講し、体育館利用の活性化・市民の体力増進・健康維持を図った。
- (セ) カルチャースポーツセンターにおいて、テニスコート・第3多目的グラウンドの開設に伴い、円滑な施設の管理・運営とともに利用者増を図った。また、女子世界ハンドボール選手権大会や全国高校総体ハンドボール競技の事前準備、開催日の施設対応等について、市や県及び関係機関との緊密な連携を図りながら管理運営を行った。
- (ソ) 山鹿灯籠民芸館において、県内で行われた国際スポーツ大会開催に合わせて、常設展「山鹿灯籠の新たな世界」として山鹿灯籠「祐徳稻荷神社」と華道のコラボレーション展示を行い、その世界観と日本の伝統文化の素晴らしさをインバウンド観光客に紹介し誘客を図った。
また、山鹿灯籠まつりにあわせ「昭和の山鹿灯籠まつりポスター展」

など特別企画展等も行いながら、マスコミや旅行会社等へのダイレクトメール、SNS等を活用し話題性ある情報発信を行い入館者増を図った。

- (タ) 山鹿灯籠民芸館において、山鹿市とともに取り組んでいる「山鹿あそび」のフォトスポット事業を継続実施し、若い世代を対象に見学者増を図った。また、「おもてなし事業」として県内の演奏家によるオカリナのミニコンサートや茶道のデモンストレーションを行い、文化芸術発表の場としての新しい活用を図りながら、入館者やインバウンド観光客の満足度向上を図った。
- (チ) 市民交流センターにおいて、ホワイエ活用事業としてミニコンサートや各種作品展示会などを継続して行い施設の利用促進を図った。
また、施設備品であるフルコンサートピアノを活用し、自らが演奏するピアノコンサートの雰囲気を経験する「フルコンサートピアノを弾いてみませんか」、施設の特性を活かした事業を計画し、参加者の予約があったが、新型コロナウイルス感染症にともない残念ながら開催を自粛した。
- (ツ) 市民交流センターにおいて山鹿市民交流センター自主文化事業・熊本県立劇場文化事業（ネットワーク事業）山鹿市民交流センター開館5周年記念事業「栗コーダーカルテットファミリーコンサート」を開催し、小さい子供から大人まで楽しめるコンサートを実施した。また、「ホワイエ子ども広場」を開催し利用促進を図った。
- (テ) 市民交流センターにおいて、文化ホールの音響特性の良さをPRすることを目的とした「文化ホール魅力発信事業」を子どもたちの春休み期間等に実施計画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともない開催を自粛した。
- (ト) 山鹿灯籠民芸館と連携し「擬宝珠制作体験」ワークショップを図書館まつりに合わせて開催し、市民交流センターの施設の利用増加を図った。

イ 文化・スポーツ等の情報提供に関する事業

- (ア) 山鹿市名刺録を発行した。
- (イ) 公社のホームページ及びダイレクトメールを活用した情報発信を行い、施設利用者の拡大を図った。

ウ その他の関連事業

- (ア) 観光名刺台紙を販売した。
- (イ) 山鹿市のお土産品としてオリジナルグッズを販売した。
- (ウ) 山鹿の伝統的工芸品「(山鹿灯籠)金灯籠」をモチーフとした手持ち灯り(姫灯籠)を販売した。また、手持ち灯りを活用した制作体験を実施した。

(エ) 山鹿灯籠への理解を深め、親しんでいただき、山鹿灯籠民芸館の集客を図るために、「ミニ灯籠」制作体験を実施した。

(オ) 山鹿市全域の観光情報等を発信する観光案内所及び観光レンタサイクルの充実を図った。

(2) 受託事業

次の各施設の管理運営及び受託業務にあたった。

「指定管理者制度施設」

- ア 八千代座等
- イ 山鹿市さくら湯
- ウ 山鹿市カルチャースポーツセンター
- エ 山鹿灯籠民芸館
- オ 山鹿市民交流センター

「受託業務」

- ア 山鹿灯籠踊り保存会及び観光振興業務
- イ 山鹿市立博物館の受付業務
- ウ 山鹿市情報発信拠点創り事業

3 事業収入に関する事項

公社の基本財産30,000,000円の運用利息3,000円、文化振興福祉向上事業費収入(公益目的事業収入)577,000円、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業費収入及びその他の関連事業収入1,942,620円、「公の施設」管理運営等の指定管理料及び利用料金222,525,567円、雑収入8,273円、前年度繰越金68,105,889円(基本財産3,000万円含む)を加えた公社事業費総収入額は、293,162,349円であった。

4 事業支出に関する事項

自主事業(文化振興福祉向上事業、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業、その他の関連事業)経費2,636,722円(公益目的事業含む)、「公の施設」管理運営等に伴う経費192,689,948円(公益目的事業含む)、管理費(公社事務局運営費)6,704,093円、特定預金支出11,434,000円、租税公課6,508,700円、公社事業費支出費総額は219,973,463円(内公益目的事業7,893,365円)であった。

5 その他の事項

令和2年度(2020年度)への繰越金は、73,188,886円(基本財産3,000万円含む)である。